

女優の死

今月21日、「スーちゃん」の愛称で親しまれていた、「キャンディーズ」の元メンバーであり女優の田中好子さんが亡くなりました。

55歳という若さでの旅立ち、ご本人にとってさぞかし心残りであったに違いないと思います。

彼女が20年間も乳ガンと闘っていたなんて、全く知りませんでした。あの爽やかな笑顔からは、そのようなことは全く窺い知ることができませんでした。その笑顔が、もう再び見ることができないと思うと、とても残念に思います。

私にとって田中好子さんは、アイドル歌手というより女優としての印象の方が強く心に残っています。彼女が出演した映画「黒い雨」は、女優としての出世作といわれており、日本アカデミー賞最優秀女優賞など多くの映画賞を受賞しました。また、その後も、数々のドラマに出演し、NHKの朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」は、私も楽しみの見たことを思い出します。彼女がお元気であれば、今後も女優として素晴らしい活躍をされたいと思うと、お掛けする言葉が見つかりません。

人というものは、「どのように生きるかということと同時に、如何に死を迎えるかということが大事」であると聞かされたことがあります。死に臨んだときに、その人の真価が問われるというであろうと思います。

田中好子さんは、亡くなる間際まで、いや亡くなった後も女優で有り続けた、そのように感じています。

一昨日、彼女の告別式が青山葬儀所で執り行われました。そして、出棺の際、彼女の肉声テープが会場に流され、参列者の涙を誘いました。

彼女の肉声テープを私もテレビを通して聞きましたが、苦しい息の中から発せられた言葉には、彼女の思いがぎっしりと詰まっており、重たいものが

ありました。

東日本大震災の被害者への暖かな眼差し

悔いない生涯への感謝

女優という仕事への尽きせぬ思い

3分余りの録音メッセージの中に、彼女の生き様が凝縮されていると感じました。

彼女は、最後の別れという時に、女優として大きな仕事をされたのだと思います。それは、人間「田中好子」が、死に臨んでの覚悟の程であったというべきです。

田中好子さんの死を惜しみながら、ご冥福を心からお祈りいたします。

(塾頭 吉田 洋一)